



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2024年11月1日

11月 273号

奈良・人と自然の会



＜佐保台小学校5年生のみなさんと一緒に稲刈りと稲架かけをしています＞



Contents

ホームページではカラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



| | | | |
|-------------------|---|-------------------|----|
| ならやまプロジェクト | 1 | 朝日親と子の自然環境教室レポ | 9 |
| Monthly Repo ならやま | 2 | 野崎城趾・自然観察会レポ | 10 |
| 里山の今（景観、エコ） | 3 | 海外ボランティア（パラグアイ）12 | 11 |
| 里山の今（虫だより、花だより） | 4 | ならやま投句箱 | 12 |
| 平城宮跡・草刈りレポ | 5 | 行事案内-1 | 13 |
| こどもゆめくらぶ里山体験レポ | 6 | 行事案内-2 | 14 |
| 月例研修会（岐阜）レポ | 7 | 幹事会報告、行事予告、会員動向 | 15 |
| 佐保台小学校稲刈りレポ | 8 | | |

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

遅い秋がようやくやってきたが、10月中旬を過ぎても9月並みの暑さが残る。気温が下がらないと開花や実を結ばない植物も多く、実りの秋も今一つ実感がわからない。それでも猛暑は無くなり、短い秋かもしれないが気持ちのいい季節である。ゆったりとした気持ちで自然と共生することの心地よさを楽しみたい。

フジバカマの蜜に誘われて数年見かけなかったアサギマダラが羽を休めていた。春から夏にかけて高地で繁殖し生まれた卵は秋に羽化して快適な気温を求めて南下、2000kmにおよぶ旅をする、その途中にならやまに寄ってくれた。小さな命をかけて旅する姿に勇気づけられるような気がする。



フジバカマの蜜を吸うアサギマダラ
(自転車道沿いの花壇にて)

11月の活動特記事項 活動日：7(木), 14(木), 23(土), 28(木)

11月2日(土)：芋ほりイベント 雨天順延 11月9日(土)

11月7日(木)：<協働活動> アダプトプログラム

11月28日(木)：新そば祭り

11月の各グループ活動予定

| グループ | 活動予定 |
|--------|--|
| 里山 | 里山林内整備、楢木用コナラの伐倒(No.21,22地区)、自然の森倒木処理、ベースキャンプベンチ更新、下草刈り、薪割り、アカマツ林松枯れ対応 |
| エコファーム | 玉ねぎの植え付け、豆類の種まき、冬・葉物野菜の手入れ・収穫 サツマイモ畑跡地の整備 鹿害予防ネットの整備、畑周辺の草刈り |
| 景観 | 整備：BC周辺、トンネル周辺、梅林周辺の草刈り、竹林整備 ビオ：池・水路の景観保全・整備、 近畿大学に協力して西池・タナゴ池の泥上げと水生生物調査 花：道路沿い花壇草引き |
| パトロール | 1~3コースパトロール、観察路整備・笹草刈り 秋のならやま自然観察会 緑陰広場への橋の改修 |
| 果樹 | 実りの森の草刈り、土壌改良、コンポストへの刈草投入 南側斜面の整備 |

活動日： 第4土曜日およびその他の週の木曜日 9:00~15:00

前日の17時発表の気象庁予報(NHKTV(奈良)19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

9月21日(土) 晴れ 23名+71名

こどもゆめくらぶ里山体験イベントを児童19名・保護者39名・先方スタッフ13名を迎えて、会員スタッフ22名にて実施。暑さが厳しい中であったが、野菜の収穫、稲と水生生物、竹林伐採、里山散策、薪割り、アスレチックの多様な体験をしていただき好評を得た。

9月26日(木) 晴れ 13名

平城京跡草刈りを19日に引き続き実施。何とか午前中で完了。

9月28日(土) 曇り 36名

土曜日であるためか参加者は少ない。

里山Gは伐倒した松の縦割り製材、NO20、23地区皆伐と下草刈り。エコGは大根、玉葱の種播き、畑の除草、茄子、ピーマンなど収穫。景観GはBC、第2駐車場の杉林の草刈り。花班は千日紅の除去と草引き。バイオ班はザリガニ駆除、タナゴ池の修理と西池北側の木道の修理。



パトロールGは観察路の階段の整備。果樹Gは、栗の収穫、実りの森の除草。

10月3日・4日は、雨の為活動は中止。

10月6日(日) 晴 14名

エコGが臨時活動として種まきのほか佐保台小稲刈りの準備。有志が協力し稲架掛け用の竹材の切り出しなどを行う。

10月10日(土) 晴れ

66名+佐保台小33名+2名+近大生3名
佐保台小5年生30名による稲刈り体験を実施。校長先生を始め3名の先生、奈良TV取材者2名も来訪。全体の協働活動とした。

里山Gは13日のイベントの準備、松丸太の加工、薪割り。エコGは稲刈りを主導したほか、さつま芋、茄子などの収穫。景観Gは彩りの森、第1駐車場の草刈り。花班は山野草園の草刈り。バイオ班は草刈り、近大生タナゴ池の定期調査対応。パトロールGは3コースパトロールと笹草刈り。果樹Gは栗と柿の収穫、実りの森草刈り。

10月13日(日) 晴れ 25名+63名

朝日親と子の自然環境教室を児童24名保護者27名先方スタッフ12名を迎えて会員スタッフ25名で実施。稲刈り、里山散策、小木伐採、薪割り、アスレチックの豊富なメニューに加え、豚汁や焼き芋も提供され、好天にも恵まれて大変好評を得た。

10月17日(木) 晴れ 65名

佐保台小児童からの稲刈り体験に対する様々な感想文と朝日親と子の自然環境教室の参加者アンケートによる高評価が紹介されイベントの成果を共有できた。

里山Gはイベント遊具片付け、松枯れ伐採木と松丸太加工材の搬出、彩の森の倒木処理、ドングリの採集と植え付け、薪割り。エコGはネギ、水菜、ハウレンソウなどの種まき、ジャガイモ、ニンニクなどの植え付け、ナス、ピーマン、カボチャなどの収穫、防草シート張りなど。景観Gは佐保自然の森草刈り、花班は自転車道路沿いと花壇の草引き、バイオ班はザリガニ駆除と周辺草刈り。パトロールGは1コースパトロールと観察路草刈り、銘板製作取付け、ジュズダマ畑の整理、緑陰広場の橋改修作業。果樹Gは栗と西条柿の収穫、草刈りとコンポストへの枯草の投入。

景観グループ



細く長くお世話になっています

辻本 愛子

13年ぶりに奈良に戻り早14年が経ちました。私自身が奈良に戻ってきて先ずしたかったことは、外国の方に日本語を教える日本語ボランティアへの参加。中部公民館で実施されている木曜日午前中の活動をネットで見つけ即入会しました。夫はというとシニア自然大学校の実習で知った当会に入会。毎回楽しそうに参加していましたので、私も自然教室、歴史文化教室など、ならやま以外の活動には家族会員として多数参加させていただきました。その折り、よく声を掛けていただいたのが西谷さんで、色々な事を教えていただき親しくなりました。それがきっかけで都合の付く時にはならやまに出向き花班の一員として活動に参加させていただくようになりました。

当時は10人近くの先輩会員から植物のことを色々教えていただき草花の世話が楽しくなり、日本語ボランティアは私のライフワークとも呼べる活動ではありますが、ならやまの活動も並行して頑張ることにしました。

3年前不慮の事故で西谷さんが亡くなり花班は宝田さんを新リーダーに、吉田さん、池田さんと私の4人になってしまいましたが、2年前に40年来の友人、國方さんを花班に勧誘し現在は5名の陣容となっています。

ならやまに出向くと今でも西谷さんが大事に育てていた懐かしい花々との出会いがあります。先日も西谷さんを見つけ保護していた日本の固有種のヌスビトハギに出会いました。よく見掛けるアレチヌスビトハギとは違い白くて奥ゆかしいたたずまいの花ですが、自転車置き場の横で今も頑張っています。

現在の花班は少人数で隅々まで手が回らずあの頃よりは多少見劣りするかも分かりませんが、温かい目で見守っていただければ幸いです。

エコグループ

猛暑を振り返り

小山 和夫

10月に入り、ようやく朝晩は過ごしやすくなりました。昨年10月に入会させていただき、丸一年が経ちました。初作業はサツマイモの収穫で大きく太いりっぱな芋が沢山とれ、すごいなど感心しました。今年の夏は全国各地で記録的な猛暑や豪雨災害等大変な状況で以前には聞いたことのないような気象用語「線状降水帯」と「熱中症警戒アラート」を頻りに耳にしました。

奈良市でも今年の猛暑日は47日と過去最多。この10年間2014～2023の年平均は16.5日で年最少5日最大29日といずれも7～8月。今年は平年の約3倍、特に9月の暑さが異常でした。真夏のエコ作業は初めての体験でしたが、作物づくりは雑草との闘いと実感し、1時間もすればヘトヘト・ボトボトになり、10時半の休憩ゴングで、皆さんとの談笑や差入れのおかげで一息つくことができました(感謝)。

幸い夏野菜のピーマン・ナスなど順調に収穫できており、小学生の稲刈り手伝い(初体験)やサツマイモの収穫も始まりました。ただ、9月初めに種まきされた大根などは残念ながら発芽しませんでした。リーダー他有志の方が平日も水やりに来られたとのことですが35℃以上の猛暑が続き地中も乾燥した為と思われます。

「暑さ寒さも彼岸まで」との言葉通り9月20日以降は少しマシな? 真夏日となり10月には再度、大根や葉物等冬野菜の種まきが行われ、秋雨もあり、発芽が確認でき、エコG一同ホッとしています。例年より1か月前後遅い発芽となり、今後の成育を見守る必要がありますが、発芽には適切な気温とたっぷりの水が必須で来年の気候にも参考になります。農作業の真似事の1年生ですが、自然相手に作物をつくることの難しさと身体的な大変さを感じた1年でした。

虫だより



花だより

成虫で越冬するチョウ

菊川 年明

チョウの越冬態(姿)は卵、幼虫、蛹、成虫の4パターンがありますが、このうち、成虫で越冬するものは約10%といわれています。

ならやまで越冬する成虫のチョウは、私が今までに見た限りではアカタテハ、ルリタテハ、キタテハ、テングチョウ、クロコノマチョウ、キタキチョウ、ツマグロキチョウ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミの10種です。それにヒメアカタテハは一部が成虫で越冬するようです。

成虫で越冬するチョウの冬の居場所は風の当たらない落葉の上、木の葉の裏、樹木の洞などです。



冬の穏やかな日には陽だまりに飛び出してきて、翅を広げて日光浴をしている姿をよく目にします。よく目につくのはルリタテハ、キタテハ、テングチョウ、ムラサキシジミなどです。



春、真っ先に飛び出してくるチョウは成虫で越冬していた種ですが、上記の4種がよく目に止まります。



写真は上から順にルリタテハ、キタテハ、テングチョウ、ルリシジミです。因みに名前は、テングチョウ以外は翅の色彩に由来しますが、テングチョウは頭部の先が突き出ているので、鼻の高い天狗に見立てたものです。

花だより

カラスビシャク

山本 美智子

烏柄杓。半夏・ヘソクリとも呼ばれ、サトイモ科・ハンゲ属である。

9月9日、パトロールグループのMさんから、草刈り中に見つけたとカラスビシャクの写メールが届き、Aさんからも花壇に咲いているとの報告があった。早速見に行くと、数本のカラスビシャクが名前の通り柄杓を立てたような姿で群生していた。子どもの頃、摘んで遊んだこともある植物である。

今では、知らない人も多く珍しい植物になっているようだ。

別名の半夏は、球茎を吐き気止めの薬用とするという漢方の呼び名である。また、それを女の人たちが採って売り、小遣いにしたことからヘソクリと呼ばれたとのこと。

畑や畦に生える多年草で、地下に球形の根茎があり、葉は1~2本伸び、三小葉。葉柄と小葉の間に球芽(むかご)をつける。花茎は高さ20~40cm。細い茎で直立する。緑色か帯紫色の仏炎苞5~7cmに包まれた内穂花序の上に雄花を、下に雌花をつけ花序の先に5~10cmの細い付属体を1本外に出して上向きに跳ね上げる。細い紐のようにも髭や鞭のようにも見える。昆虫を誘う為の進化か? 果実は液果で緑。熟すと苞の下部が開き種子が出る。

花期は5~9月。分布は日本全土。緑色のやさしげな立ち姿にぴょんと跳ね上げたユニークな表情が可愛らしく、植物らしからぬところが面白く思うのだが.....

似ている植物に大型で仏炎苞に特色のあるテンナンショウ属のウラシマソウ・マムシグサ・



ムサシアブミ等々がある。

平城宮跡草刈りレポ

尾崎 信次

9月19日少しは涼しく感じられた朝8時、ならやまベースキャンプに17名の草刈りの仲間が集まり、刈払機13台・スパイダ3台・モ



ア1台を軽トラックに積み込み、乗用車4台に分乗して出発した。目指すは平城宮跡の東側、東院庭

園の南に位置した田んぼ四面、面積は5000㎡。

8時半過ぎ到着、まずは集合場所を確保する

ための場所の草刈り。今年からテントを張って日陰を確保するようにした。



割り振りに従って、分散して草を刈り始めた。夏の猛暑で成長した草の背丈がいつにも増して高く、丈夫。ススキなんかは2m近く、人の背より高い。私はスパイダを使っていたが、1m



も進まないうちにひっくり返して回転歯や車輪に巻き付いた草

を取り外すハメにになった。刈払機はみんなチップソー式で刈っていったが、苦勞している模様。

天気は曇りで日は照っていなかったが、湿度が高く温度も上がっていった。11時過ぎ早めの昼食休憩。この時点で気分が悪くなる人や足をつる人が続出。午後1時前に終了。まだ1/3ぐらい残っているが体力が限界で来週に持ち越し。

翌週26日にリベンジ、少し人数が減って13名、8時頃刈払機を軽トラックに積み込み平城宮跡へ

8時半頃到着まずは集合写真を撮ってから、草刈りを開始。



今度は様子やコツもわかり順調に刈り進んだ。天気は良く、太陽も照って気温も30℃ぐら



いまで上がったが、湿度が低く、かなり快適。赤とんぼが飛び回り、彼岸

花もほぼ満開に。秋の気配を感じながら、11時頃に草刈り終了。満足感とともに、ならやまに帰る。本当にお疲れ様でした。



「こどもゆめくらぶ」

里山体験レポ

富江 文雄

9月21日(土)

子どもたちとその家族それぞれにお世話の方を入れ71人、当会のスタッフ23名を入れて総勢94名での開催となった。前日までの猛烈な酷暑が多少なりとも緩和される曇天であったが、もし暑さ指数が危険範囲になれば、その時点で中止となるとの了解の下、スタッフ全員早くから集まってテントを張りすべて準備完了。

10時半には全員集合の予定であったが、車で来る人たちが道に迷うということがあって、少々遅れて始まりました。始めに朝の歌を合唱、千載会長の「ようこそならやまへ」の挨拶があった後、里山特有の危険物などの説明があった。



11時から全員で稲田に向かい、鈴木さんの「お米の話」で稲の種類、伝来、栽培の流れ等の説明を受けた。

次に2班に分かれて、一班はビオトープ池に移動して田中さんからビオの成り立ちや、絶滅危惧種のペタキンの話の後、「もんどり」を上げて中に入っている生物の観察、特にザリガニや



スジエビ等を取り出し、更に手網を使って池の

生物すくいに夢中になった。

二班は畑に移動して、エコの皆さんに迎えられ東池に隣接する農園で、ナス、ピーマン、万願寺トウガラシを収穫。大きな長ナスには驚きの声があがった。



そこで午前の部は終了。昼食時にはならやま名物の豚汁が提供された。暑いときに熱い食べ物も御一興、フーフー言いながら食べた。

午後の部では、全員ヘルメット着用し、班ごとに竹林活動と薪割り体験を交互に行った。

竹の伐採では根元から少し上に切れ目をいれ、倒す方向を定めて一気に切り倒す。それを3~4m程に切り、枝を払って完成。

薪割り機は危険なので、作業を慎重に行った。丸太を薪割り機に設置、刃を当ててゆっくりと割り込みを入れていき、完全に割れてから取り出し薪棚に並べて完了。

それぞれ貴重な体験が出来たと思う。

竹林を後にして山中の観察路を進み、途中でシイタケ栽培地で榎木(ほだぎ)が組まれているのを見て、アスレチック広場に到着。

薪割りを体験した班は機関車広場を通過して部分皆伐地へ移動、植樹の話聞いて樹木林の再生を学んだ。そして観察路経由でアスレチック広場へ。

山の中に設営された色々な道具を使って思いっきり楽しく遊んだ。

その後、それぞれ別のルートでベースキャンプに帰り、千載会長の「里山の話」を聞いた後閉会の挨拶があった。お土産として収穫した野菜、じゅず玉のブレスレット、鹿の折り紙などが手渡され、終了した。

月例研修会(岐阜)レポ

岩村城、赤沢自然休養林

戸田 博子

10月7~8日、月例研修一泊旅行があった。

岐阜県恵那市の岩村城と長野県木曾郡の赤沢自然休養林への一泊旅行だ。よく知っている仲間ではあるが、旅行はならやま活動以外の人柄を知ることができる。

さて7日は雨の予報だったが、時々薄日が差す曇天で、岩村城をめざして出発した。岩村城は大和の高取城と備中松山城と並ぶ日本三大山城の一つに数えられる名城だ。

標高717mの山城は、往復1時間は歩かなければならない。歩くのに大変な仲間もいる。岩村の街並み散策組と坂も頑張れる登攀(?)組に分かれた。



杉、桧をぬうように石段を登ること30分、開けた天守閣跡に着いた。私たちのグループ以外、人はいなかった。歴史に詳しいメンバーからお話を伺いながら、戦国時代から安土桃山時代にかけて生きた、織田信長の叔母にあたる女城主おつやが辿った人生などを各自思い描いて



いたのではないだろうか。

その後下山し、岩村の街並み散策組と岩村醸造へ全員集合した。

酒蔵の歴史を社長よりお話を聞き、町の歴史と共につないできた酒を試飲。ソフトクリームを食べるメンバーもいた。小さいながらも、昔の繁栄を思わせる街並みを各自のペースで歩いた。その後、今日の宿泊地、昼神温泉「ひるがみの森」へ向かった。

8日は、昨夜の雨で道が濡れていた。赤沢自

然休養林がうまく歩けるか不安になりながら、出発した。少し北に移動しただけだが、道も乾き、曇り空で赤沢に到着。晴れ女が沢山いる？



伊勢神宮神木伐採跡地

赤沢地域は日本最初の「自然休養林」に指定され、「森林浴発祥の地」と言われている。休養林の中には、森林鉄道の他に8つの散策コースがある。ここでも鉄道乗車組と散策組に分かれた。



<乗車券木札>

乗車組は8名で森林鉄道貸し切りだった。

散策組は赤沢の代表的な道「駒鳥コース」を歩いた。ヒノキやサワラの大樹があり、伊勢神宮御神木伐採跡地を見ることが出来た。紅葉には少し早かったが、木についている名札を見ながら確認し、木曾五木を見つけながら歩いた。集合場所に帰る頃は、雨がかなり降ってきたが時間通りスタート地点に戻った。

昼食は、寝覚ノ床に近い五平餅で有名なお店へ行った。私たちで満員になるような小さな食堂だが、五平餅はおいしく、10人以上の方がお土産として買われた。

最後は、木曾路の馬籠宿へ行く予定だったが雨も激しくなり、石畳の道を歩くのも大変と判断し、残念だがバスの窓から眺めながら通過することになった。

バスの中では、頭の活性を図る「漢字読み方」クイズで盛り上がった。そして歌カードが配られ、みんながよく知っている「昭和の詩」を大合唱。最後まで、楽しく元気な研修旅行だった。

佐保台小学校稲刈りレポ



岡田 俊司

10月10日(木)、前日までの天気と打って変わった秋晴れに恵まれて、佐保台小学校5年生による稲刈り体験が開催されました。

この恒例の行事も今年で16回目を迎えます。スタッフもマムシ除けをして万全の体制で参加者を迎えました。また、奈良テレビの方も取材にきてくれました。先生方と共に30名の児童がならやまを訪れ、早速稲刈りが始まりました。



まず、鈴木顧問・千載会長の挨拶と稲刈りの手順や注意点をイラストをまじえて説明したあと、スタッフによる手本を見てもらい、早速スタートです。鎌を持つのも初めての子どもたちがなれない手つきで稲を刈り始めます。

初めはおとなしかった子どもたちもだんだんとなれてきて楽しくなってきたのか、元気な声を上げながら稲刈りをしている姿を見ると、こっちまで楽しくなります。普段、静かなならやまに子どもたちの声が響き渡ると里山全体が活気に満ちてくるように感じました。

2組に分かれて1組目が稲を刈り、後の組が6束ずつひもで束ねます。そして2組目が途中で交代して稲を刈り、最初の組が今度は稲を束ねます。その間に稲刈りの終わった場所にはざかけ用の竹を組み、刈り取られ、束ねられた稲を干していきます。作業を終える頃はちょうどいい時間になっていました。終わってみると、みんな泥だらけ！ しりもちをついたのかお尻までどろんこの児童もいました。

最後に千載会長、鈴木顧問のあいさつと児童を代表しての「楽しかったです」のお礼のあいさつで、けがもなく無事に稲刈りを終えました。

普段、鎌など持つこともなく、田んぼに入ることもない現代の子どもたちに自然の営みの一端でも感じてもらえたかなと思いました。このお米は、佐保台小学校の給食に登場する予定です。



後日、佐保台小学校5年生のみなさんからお手紙をいただきましたので、その中から一部抜

粋して、複数の児童の声をご紹介します。

★「ぼくは、田植えをするときに思った以上に大変だったから、早く育ててほしいと思いました。4か月たってみたら、稲がぼくの腰くらいまで育っていたのでうれしかったです」

★「はじめは鎌がこわかったけど、なれるとこわくなくなりました。農家の人の大変さとお米ひとつぶひとつぶの大切さを知りました」

★「稲を束ねるとき、きつく結ぶことを教えていただきました。長ぐつがぬげてしまったときに肩を貸していただきありがとうございました」

★「田植えも稲刈りも、稲を束ねるのも全部楽しかったです。さよむらさき、というお米の品種を初めて知りました。給食で食べるのが楽しみです」

★「田植えや稲刈りはどうしたらいいか、みなさんがやさしく教えてくださったので、いい体験になりました。みなさんの大変な思いや愛情はお米がおいしくなる秘訣だと思いました」

★「みんなで協力するのは、思ったより楽しく、こんなにすてきなのかと、何よりもチームワークということを教えてくださいました」

★「田植えも稲刈りも楽しすぎて、大きくなったら、家に田んぼを作ろうと考えています。自分で作ったお米はおいしいだろうと思います。会のみなさん、がんばりすぎないで、たまには休んでください」



朝日親と子の

自然環境教室レポ



小島 武雄

10月13日、朝日親と子の自然環境教室が、秋晴れの中開催されました。

参加者は、子ども24名、保護者27名、シニアスタッフ12名の63名。

当会のスタッフは25名、9時に集まり手際よく、会の幟、環境教室の表示看板取り付け、椅子の配置を終え、皆で畑にてマムシの追い出しにかかりました。「いました！ 見つけました！」まだ若いマムシですが、噛まれると大変な事に、ペットボトルに生け捕り、子どもたちに見てもらうことに。

10時40分の開会で、千載会長による現在のならやまがどのように整備されてきたかについて、わかりやすい話の後「稲刈り体験」です。鈴木さんより、稲の刈り取り、結束、稲架がけの指導を受け、生きたマムシも披露して、一斉に畑に入ります。子どもたちを先頭に保護者が後について、2班に分かれて刈り始めます。初めて鎌を持つ子どもたちは、なかなか説明通りにスパッと切れません。刈った稲は纏めて束ねます。だんだん調子が出てきて、予定通り50分ぐらいで、稲はすっかり刈り取られました。



稲刈り体験

BCに戻る頃には、豚汁の準備ができています。里山の豚汁は大人気で、お代わりする人も

沢山。熱々のダッチオーブン焼き芋もあっという間になりました。みんな季節外れの暑い日差しを避けてテントや木陰の下で昼食です。

12時45分、午後からは「薪割り」と「ロープ登り」に別れて、スタートです。薪割りは、機械を操作する子と、丸太を台に設置する子の真剣なまなざしが見られ、すぐ隣では保護者のお父さんの斧での薪割りで拍手が起こりました。



機械で薪割り体験

ロープ登りは、いつもながら子どもたちより保護者の方の方が、大変そうでした。「小木伐採」は、なかなかノコギリで思うように切れないけれど、懸命にやってくれました。

いつもの「山のアスレチック」は大人気でした。



森のアスレチック

皆伐地では萌芽の株を見て、植樹の成長の話。展望広場を経てシイタケ生育地を巡り予定通り14時40分にBC到着。

千載会長による「里山のお話」は、みんな静かに聞いてくれました。最後に「お土産」ジュズダマ、鹿の折り紙、猫じゃらしのウサギを、大事そうに持って帰ります。

秋のイベントは無事に終了しました。スタッフの皆さまありがとうございました

野崎城址・自然観察会レポート

小島 武雄

秋の自然教室は10月14日(月)に行われました。参加者は16名、新しくなったJR野崎駅に集まりました。田代先生は、いつものキャップで、にこやかに現れ、ぎっしりと書き込まれたA4の資料を手渡してくれました。タイトルは、野崎観音～堂山古墳群とありました。

雨でも実施するよ!とっておられました。が、素晴らしい快晴に恵まれました。早速に道端で、サボテンのトゲは葉っぱの話、ひっつき虫は実ですか?種ですか?から始まりました。

野崎参りの終点の「観音浜の碑」前では、チャンチャン♪と天満から大川を屋形船での、東海林太郎の野崎参りの歌が披露されました。アメリカセンダングサ(ひっつき虫)の話で、種はどこまで広がるか?動物についたものは950Kまで、鳥に食べられた種は、たった1K程度の驚き。



たくさんの資料が出ます

太子堂(専応寺)へ向かいます、途中で国道170号と並ぶ昔の東高野街道(東寺から高野山まで)を横切ります。野崎参りは先に太子堂へお参りして行くのが決まりとのこと。ここの石垣には、徳川時代の大阪城の石垣を運んだ、「京極丹波上」の碑文の石がありました。徳川からお礼の井戸がありましたが、門が閉まっています。寺には、花梨の木

があり、その実を、象ではなく猪に食べさせた話は面白く聞きました。

いよいよ急坂を登り野崎観音(慈眼寺)へ、鐘撞堂では、鐘の下に潜り込んで、アリジゴクの生け取りに挑戦。コミカンソウの沢山についている葉が、実は単葉の理由。ニ葉松とゴヨウマツの葉の断面形状の違い。トクサの面白い遊び方。ヤブガラシの蔓、蔓、休み、蔓の反転の話など。次々に手に取っての話、ルーペで見て、さっと絵を書いている説明が続きます。お染久松の話も交え。次に「堂山古墳群」へ、急坂や階段が続き、ちょっとついていけない人も出てきました。



堂山古墳群

古墳群の付近には、アベマキが沢山落ちていました。頂上からは、大阪平野の素晴らしい眺望がひらけて感激。帰り道にオオバヤシャブシを分解して種と葉はどれか?など。目一杯に教えていただきました。最後は、ちょっとキツイ行程でしたが。久しぶりの田代先生のお話に、皆さま満足された様子でした。ちなみに一番近くから来たと思われる、私の歩行計は、13,722歩でした。



絵を描いての丁寧な説明

海外ボランティア活動体験記—12
 パラグアイ (1997~2002)

木村 裕

小さな生き物たち

東南アジアの発展途上国ではハエは食べ物があればワンサカ集まってくるのですが、ここパラグアイでは意外にも少なく、そばに寄ってこなくて愛想がないくらいでした。我が家にも暇をもてあましたのが数匹ゴロゴロしていたので、食べ物を置いてやるとヒョコヒョコとお余り頂戴とばかりすり寄ってきます。人なれしており、簡単に指で捕えられます。

蚊はたくさんおります。そっと寄ってきて血をすばやく吸って逃げ去るので悩ましいかぎりです。幸いにも蚊取り線香は効果があります。蚊が媒介するデング熱はごく普通に発生します。感染すると何日も高熱が続くにも拘わらず、有効な治療対策もないそうです。そのため、市の保健担当は煙霧機を車に積んで街の中をグルグル走りまわっています。街路をうろついている蚊ばかりでなく、愛をささやいている犬も、カッコよいセニョリータもそのトバッチリを受けています。また田舎ではマラリアが発生しているとのニュースもあります。



ゴキブリもたくさんいました。南米産だから大きくて色鮮やかかと思っていたら、日本産とほぼ同じようで期待外れ。新築マンションに関わらず何処からか移住してきて、ワイフと追い

つ追われつの競争をしていました。おとなしくて人なつくくてかつ愛嬌のある親日的な虫さんでしたが、残念ながらワイフとはどうも馬が合わなかったようです。



チョウやトンボ、甲虫類もちょっと郊外にいればいっぱいいます。羽が透き通ったチョウ、押しピンのように背中が盛り上がった甲虫など、派手な色彩と奇妙な形の虫は、虫好きの私にとっては彼らと出会うのは楽しみの一つでした。しかし山や深い森林がなかったせいか、大型のカブトムシやクワガタムシが見つからなかったのが残念。



ベランダの紫色の花（ドウランタ）にスズメくらいの大きさの緑色に輝くハチドリがときどきやってきて、花の前で空中停止して忙しく羽ばたかせながら吸蜜をしています。



また、コウモリが招待状もないのに部屋の中に飛び込んできて、ワイフを驚かせていました。

色白のヤモリもたくさんいます。大きな黒い目玉をギョロギョロさせながら街灯のところで連夜頑張っています。

新ならやま投句箱

俳句

お隣へ裾分け持参秋刀魚焼く

阿部 和生

緑溪に微笑むがごとく山葡萄

中井 弘

嫌われ者秋はくれないやまうるし

菊川 年明

病み上がりコスモス畑で一休み

羽尻 嵩

にわか雨避けて揺れてる秋明菊

小島 武雄

新蕎麦で卒寿を祝う一会かな

古川 祐司

逝きし人偲ぶ雲行く秋の空

山本 美智子

窮屈だ押し合いへし合い曼珠沙華

國方 まり子

天高しシテイフィールド翔タイム

藤原 勲

友去りてスーパームーンもおぼろなる

千載 輝重

渡り蝶蜜を求めてならやまへ

鈴木 末一

百舌鳥の声青空高く澄み渡り

清原 加代子

川柳

あれれまあコモドドラゴン孫元氣

ばば

よつこいしよ見上げる空に秋の雲

ぜんちゃん

四季の国夏日半年亜熱帯

トラ吉



新ならやま投句箱への投句有難うございます。今後ともよろしく願っています。

お茶しましよこの時が好き活動日

喋り過ぎ

膝の上アイコンタクトでまるくなる

武ちゃん

熱あれば裏から来いと言うお医者

フランカー

値上がりか瑞穂の国の米事情

ミーチャン

赤白黄子ユリッブじやないよ彼岸花

草引き名人

柿食えどまたも真夏日神無月

のぶ

信を問い願いを込め搗く裏の鐘

懲りない奴

やれまだか頭こぶを垂れろと急かされる

新米

短歌

枯葉散る木枯らし吹きて秋深し

谷川 雅邦

冬のソナタよ静かに迫る

谷川 雅邦

飛鳥路の石舞台に舞う鳥影は

谷川 雅邦

空を楽しむかりようびんが迦陵頻伽

戸田 博子

下池にまつすぐ伸びる泳跡波

戸田 博子

自慢顔したカルガモが行く

小島 武雄

宅配とビデオ通話の敬老日

小島 武雄

柔らかき頬直に触れたし

豊田 浩代

行事案内Part1

秋の自然観察会



月例研修会のご案内

晩秋の桜井茶白山古墳と

忍坂街道・多武峰街道

「ならやまの自然観察路を歩く」

富井 忠雄

小島 武雄

11月度自然教室 11月14日(木)午後1時頃から1時間程度

スタート：ならやまBCから4グループに分かれて歩きます。

秋になりました！！
ならやまの身近な自然、季節の変化に気づいてみましょう。

今回は、パトロールGが自然教室を応援していきます。

BCから、自然の森観察路に入り、ならやまの森を歩いて行きます。いつも何気なく目にしている里山ですが、秋から冬の訪れを観ていきましょう。午後のひと時を一緒に楽しく過ごせたら嬉しいです。お気楽に参加ください。



今回はヒミコの里・記紀万葉のふるさと桜井の街道をバスで巡ります。

桜井(外山)茶白山古墳(3C後半)は鳥見山から北に延びる屋根の先端を切断し、築造された大型の前方後円墳。全長200mの規模で、初期ヤマト王権の大王墓と推測されます。

忍坂街道では、舒明天皇陵、万葉の鏡女王墓、石位寺、栗原寺跡を見学し、倉橋溜池(食事)、多武峰街道で談山神社の紅葉を楽しみたいと思います。

記

日時：12月3日(火)雨天実施
集合：近鉄奈良駅前元奈良商工会議所前9時
持物：弁当、飲物、雨具、ハイキング靴
会費：4000円(バス代)拝観など各自払い
申込先：富井忠雄
行程：元奈良商工会議所前—桜井茶白山古墳—舒明天皇陵—鏡女王墓—石位寺—栗原寺跡—天王山古墳—倉橋溜池(昼食)—崇峻天皇陵—談山神社—近鉄奈良駅前17時頃 解散



桜井茶白山古墳



談山神社

行事案内₂



芋煮会のご案内

新そば祭りのご案内

三瀬 英信

そば文化クラブ担当 太田 和則

令和6年度の新そば祭りは、芋煮会開催時に共同開催ができなくなりました。我がクラブは年間を通してそば打ちを実施しておりますが、上達した腕前を披露する場もなく終わってしまうのも寂しい限り、そこで美味しい蕎麦を皆さんに味わっていただきたいと思い「新そば祭り」の企画を下記の通り提案させていただきました。(コロナ禍を経て“やっと安心の蕎麦打ち”ができるようになりました。新しいメンバーも加わり活気ある研修会を毎月行っています)

記

イベント名：新そば祭り

開催日：11月28日(木) 11:30~13:00頃

(降水確率60%以上で中止)

場所：ならやまベースキャンプ

出し物：ぶっかけそば、かきあげ、そば粥、玉こんにゃくなど

そば器、箸をご用意ください。

そば打ち実演(飛び入り可2名)

参加費：試食者 300円

持帰り販売 500円(1パック2人前)

(弁当については各自で判断ください)



ぶっかけそば器(参考)



10月半ばを過ぎてようやく秋風を感じるこの頃です。気象庁によると、今年の夏は統計のある1898年以降で最も暑かったと発表されました。農作物は全国的に不作で、ならやまの野菜も暑さにやっと耐えていました。

昨年の里芋の種芋は保存が悪く、新たに大野芋と海老芋の種芋を仕入れることになりました。猛暑の中で成長は今一つ十分ではありません。

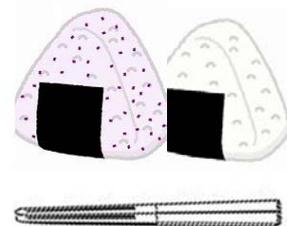
かかる条件下ですが、いずれも定評あるブランドの芋を使って、今年も芋煮会を行います。諸物価高の折りですが、美味しい肉を買い求めて、ならやま育ちの芋煮を提供すべく、エコグループの皆さんと賄いのみなさんで協力して美味しい芋煮に仕上がると思います。

ご期待ください。

記

- 日時：12月5日(木) 12時から
(雨天の場合は12日(木)に延期)
- 芋煮と共に白米おにぎりとおにぎりを提供します。

各自お腹と相談の上お弁当をご用意ください。



2024年10月度幹事会報告

開催日：9月24日



「暑さ寒さも彼岸までとは……」
秋の風が心地よく感じるようになり、ならやまの活動にとってよい季節になってきました。

I.はじめに

- ・平城京跡の草刈りは19日に実施したが1/3が残り、26日追加実施する旨、奈良県に報告。
- ・こどもゆめくらぶイベント実施状況の検証

II.会計・総務より

- ・会員動向：会員数131名(家族13名)
会費未納者4名は9月末日で退会とする。
- ・会計：収支報告

III.活動・行事に関する議題・懸案・確認

1.3ヶ月活動スケジュール検討・確認

2.ならやまプロジェクト関係

- ・10月の活動計画の確認
- ・10/10 佐保台小の稲刈りを協働活動として実施

3. イベント関係

- ・10/13 朝日親と子の自然環境教室
- ・10/19 芋掘りイベント
(佐保台小学校の参加者人数は2週間前までに連絡するよう依頼)

IV.助成金関係

- ・9月末を迎えて中間報告予定
- ・来年度助成について申請書起案中

V.特定議題

- ・会員名簿(氏名のみ)をホームページの会員専用ページで公開する

VI.広報関係

- ・11月号の編成、執筆者の確認

VII.報告・連絡事項、その他

1. 月例研修会

- ・10/7-8 岩村城跡、赤沢自然休養林

2. 自然教室

- ・10/14 田代先生 野崎城跡自然観察会
- ・11/1 佐保川小 秋の校庭自然学習支援
- ・11/14 ならやままでの秋の自然観察会

次回幹事会は10/29(火) 中部公民館 14:00～

下呂温泉から車で20分ほどの下呂市金山町岩瀬字高平の静かな山の中にひっそりと約10mを超える大きな岩たち、神秘的空気を感じさせる金山巨石群があります。

日本に数多くある巨石遺跡の中で考古天文学的調査が行われた縄文時代の史跡「岩屋岩陰遺跡」を含む最初の遺跡です。太陽歴の機能を持つ巨石建造物の可能性が20数年間の調査によって解明され、巨石の石組は春分・夏至・秋分・冬至など太陽カレンダーとして機能するように設計・建設されたと推定されるとのこと。縄文時代の世界観を一転させる巨石群に秘められたミステリー、石のすき間から差し込むスポット光や日出・日没の瞬間に見られる太陽光などが観測できるそうです。

4500年以上前の人たちが太陽暦を見るために使われていた…? ととても不思議な空気感とワクワク感を感じることが出来ます。金山巨石群では春分・夏至・秋分・冬至などを中心に観測会が開催されています。興味のある方は一度訪れてみてください。

12月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動 12/5 協働活動日
12/5 芋煮会

*月例研修会 12/3(火)桜井・忍坂街道

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

編集委員：青木(幸)・尾崎・清原(加)

柴田・千載・田中・戸田

表紙写真：佐保台小学校の5年生と一緒に稲を刈り、稲架かけをしています。